

# CASBEE® 京都-新築

# 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都産業大学新追加棟	階数	地下2階 地上4階
建設地	京都市北区上賀茂神山7-69、他	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居、第1種住居地域	平均居住人員	158人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,500時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年5月 竣工	評価の実施日	2013年3月10日
敷地面積	27,090 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	1,842 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	4,326 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値

② 建築物の取組み

③ 上記+②以外の

④ 上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比較したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安を示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.4

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・京産大50周年記念事業の実施のモデルの一つに、教育強化プロジェクトがある。本計画は、その役割を担う「体育室」として計画されている。敷地は高低差が約25mある土地の取交を最小限に抑えた造成計画に基づき、敷地の形状を積極的に活かした計画とした。		<b>その他</b> ・屋根面に太陽光パネルの設置を計画している。
<b>Q1 室内環境</b> ・外部に面した開口部には、ペアガラスを採用。廊下や便所等の共用部には、LED照明を採用した。	<b>Q2 サービス性能</b> ・耐用年数の高い配管材を採用。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> ・風致保全除地の確保を行うと共に、建築の外周にもできるだけ植栽を計画した。道路側にも駐車場上屋を設けるための植栽を計画している。
<b>LR1 エネルギー</b> ・効率のよいビル用マルチエアコン、パッケージエアコン、ルームエアコンを採用。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・内装材は、全てフォースターランクを採用し、シックハウスに配慮した。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・電波障害の机上調査、日影図により周辺環境に影響が無いように配慮している。雨水貯留槽を設置し雨降された流出抑制対策を講じている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LRC: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される